

# 多摩市立東愛宕中学校の災害安全教育

## 地域・学校・生徒の現状

- ・マンションや団地が多く、核家族や高齢者世帯が中心の地域性である。
- ・ESDを中心に、ボランティア活動や地域貢献などに継続的に取り組んできている。
- ・東日本大震災から3年が経過し、経験を風化させない継続的な取り組みが必要。
- ・中学生に対する地域からの期待が大きく、学校と地域行事などが密接に運営。



## 学校の進むべき方向

- ・「安全教育プログラム」「地震と安全」「3.11を忘れない」「未来をつくるブック」等の活用と指導の充実
- ・外部専門家を活用し、実社会や行政や大学、NPO等と連携した学習の充実
- ・携帯端末やICTの活用による災害情報や防災情報の提供と利用、共有の充実
- ・自助と共助それぞれの知識と実践力を備えた生徒の育成と地域への啓発

ユネスコスクールとして  
東愛宕中学校が果たす役割

体育祭での防災種目の位置付け

幼稚園や保育所、小学校との連携の強化

## 自助への取り組み



- ・避難訓練の改善や重点化「中学生サバイバルカード」の開発を行い、自然災害について知り、自助の意識を高める。
- ・自助のためには、社会的基盤整備や防災・減災などの仕組みや課題を知る。
- ・自分の身は自分で守るという具体的な自助に取り組む活動・体験の焦点化を図る。

意図的で多様な避難訓練とサバイバルカードの活用

防災自助パックを活用した思考力や判断力の育成

防災CAMP・サバ飯等による自助活動の定着と実践

気仙沼市など被災地の経験や実際を知る活動への参加

## 共助への取り組み



- ・救急救命や応急処置の知識やスキルの計画的な習得。
- ・自治会や青少協等と連携した活動や避難訓練の実施。DIG.HAG.シェイクアウト等
- ・避難所としての学校と地域住民の共通理解や協働体制の強化による防災機能の充実

生徒会、赤十字活動やボランティア活動への取り組み

救急救命講習や応急手当の習得と活用場面の設定

生徒の避難訓練や防災訓練への相互参画促進

Twitter等の活用による情報提供の迅速化



## ESD (2050年の大人づくり)の視点

災害安全教育をとおして、自助と共助の意識と実践力を備え、将来起こりうる災害に対して的確に判断や行動できる人づくりが重要である。

持続可能な社会は、災害に強く復旧や復興を視野に入れた防災や減災害についての行動力を備えた人づくりが重要である。

